# 『紅楼夢』前八十回における動詞重畳式についての研究
## ――認知言語学及び心理言語学の観点から

安徽科技工程大学　胡春艶　蘇浩東

1. はじめに

重畳は中国語の代表的な言語手段として、主に形容詞重畳式と動詞重畳式を中心に行われる。『紅楼夢』は明清白話小説として、当時の華北地方を中心とする北方社会の言語の実態を反映しており、近代中国語から現在中国語への過渡期に位置している。場面や対象を効果的に描写する形容詞重畳式と違って、動詞重畳式は多くの場合、動作の少量と試行などという意味を表す。本文は『紅楼夢』における動詞重畳式の実態を統計的に調査し、意味を分析したうえで、認知言語学と心理言語学の視点から動詞重畳式の動因を分析してみる。

2.動詞重畳式について

胡春艶（2023：26）は、形容詞重畳式について、形容詞の基式から構成される AA 型の形容詞重畳式のみならず、重畳後に語義と用法が形容詞に合致する形式を形容詞重畳式と規定した。動詞重畳式も同じ立場をとり、基式の品詞に拘わらず、重畳後に語義と用法が動詞に合致する形式を動詞重畳式と規定する。ただし、VV 式には「看一看」のような V 一 V、「看了看」のような V 了 V の変体が含まれ、これらも VV 式の変体として扱う。また、動詞重畳式には、ABB 式動詞重畳式の基式は動詞であっても、重ね合わせ後に動作を表すのではない。たとえば、“笑嘻嘻”“荡悠悠”“睡昏昏”“笑吟吟”など、「状態化描摹動作情貌」を表し、文成分には状態形容詞に近く、これらを形容詞重畳式に分類する。一方、“躲猫猫”“转圈圈”のような北方方言の口語の用例が『紅楼夢』に見つからないようです。

また、動詞重畳式に属するかどうか、『紅楼夢』における意味と用法によって判断する。たとえば「看看」は、多くは動詞「見る」の重畳であるが、“看看的一月”“看看三日光阴”の“看看”は“转眼（渐渐、将要）之意。”（王维懋（1999）《汉语重言词词典》）という意味で、現代中国語で“堪堪”を表記で、副詞であり、研究対象に含まない。

AABB 式動詞重畳式は AABB 式形容詞重畳式と多くの共通点を有し（潘国英，2025）、状態形容詞の機能を持つと考える。（华玉明，2003）そこで、本文では『紅楼夢』における反復的動作を表す動詞重畳式のみを対象とし、状態を描写するものを形容詞重畳式に分類する。例えば、揺

れる様子を示す“飘飘荡荡”などを形容詞重畳式と見なす。したがって、本文の AABB 式動詞重畳式は“脱脱换换”“谈谈讲讲”“走走逛逛”の三例に限られる。

３.使用状況

3.1 統計的な研究

3.1.1 単音節動詞重畳式

潘国英（2015）大島吉郎（2005）の分類を踏まえて、単音節動詞重畳式に、VV 式、V 一 V、V 了一 V、V 了 V、VNV、VN-V の六種類を統計している。表１は『紅楼夢』前八十回における単音節動詞重畳式の異なり語数と延べ語数を示したものである。

**表１　『紅楼夢』前八十回における単音節動詞重畳式**

| 形式 | 異なり語数 | 延べ語数 | 延べ語数の割合 | 語例 |
|---|---|---|---|---|
| ＶＶ式（VVO） | 95 | 534 | 61.88% | 瞧瞧、通通头 |
| Ｖ一Ｖ式 | 85 | 166 | 19.1% | 想一想 |
| Ｖ了一Ｖ式 | 33 | 130 | 15% | 想了一想 |
| Ｖ了Ｖ式 | 13 | 19 | 2.2% | 谈了谈 |
| ＶＮＶ式 | 3 | 3 | 0.35% | 劝他劝 |
| ＶＮ一Ｖ式 | 11 | 11 | 1.27% | 别你一别 |
| 合計 | 328 | 863 | 100% | |

VV 式は使用頻度が高く、しかも「瞧瞧」「看看」「听听」「问问」のように、もともと口語性の高い知覚動詞・行為動詞が重畳されやすいという傾向を示す。また、同一の語が複数回用いられる例が多く、基礎式の反復使用が目立つ。これは、VV 式が会話場面で多用される定型的形式であることの反映である。「瞧瞧」だけで延べ 137 例を数え、VV 式全体の 26.5%を占める。次いで「想了一想」47 例、「逛逛」42 例、「听听」39 例、「看看」37 例、「歇歇」23 例、「问问」22 例、「说说」16 例、「瞧了一瞧」14 例、「想想」14 例、「走走」14 例、「想一想」13 例である。（表 2）

**表 2　AA 式動詞重畳式の高頻度語（上位 12 語）**

| 順位 | 重畳式 | 延べ語数 | 順位 | 重畳式 | 延べ語数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 瞧瞧 | 137 | 7 | 问问 | 22 |
| 2 | 想了一想 | 47 | 8 | 说说 | 16 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 逛逛 | 42 | 9 | 瞧了一瞧 | 14 |
| 4 | 听听 | 39 | 10 | 想想 | 14 |
| 5 | 看看 | 37 | 11 | 走走 | 14 |
| 6 | 歇歇 | 23 | 12 | 想一想 | 13 |

単一の語への極端な集中は、『紅楼夢』の人物言語が口語的な定型表現に依存していることを示す。また、V 一 V 変体が 166 例、V 了 V、V 了一 V の変体が 149 例と、変体が合わせて 315 例に達するのは、動作の軽微化・試行性をより明示的に標示しようとする運用上の要求の現れであろう。また、VVN 式動詞重畳式は、異なり語数が 14、延べ語数が 22 である。「散散心」4 例、「说说话」3 例、「洗洗脸」3 例、「请请安」2 例、「点点头」2 例、「歇歇脚」「皱皱眉」「换换衣」「解解闷」「洗洗手」「开开心」「算算命」「翘翘脚」が各 1 例である。使用頻度は低いが、日常的な動作を表す動賓式複合動詞に集中している。本文は VV 式動詞重畳式に属する。

3.1.2　双音節動詞重畳式

全文述べたように、AABB 式動詞重畳式は形容詞重畳式の描写性を有し、形容詞重畳式に属し、動詞意味を有する例語は“脱脱换换”“谈谈讲讲”“走走逛逛”の三例に限られる。ABAB 式動詞重畳式は、異なり語数が 57、延べ語数が 96 である。「歇息歇息」7 例、「打听打听」6 例、「商议商议」5 例、「料理料理」5 例、「照看照看」5 例、「见识见识」5 例、「疏散疏散」4 例、「收拾收拾」3 例、「喜欢喜欢」3 例、「斟酌斟酌」2 例などである。このほか、AB 了 AB の「端详了端详」、AB 一 AB の「疏散一疏散」、AB 了一 AB の「打谅了打谅」のような語例がテキスト中に散見される。

3.2 使用状況

3.2.1　動詞重畳式の基式について

すべての動詞が重ねられるわけではない。どの種類の動詞が重ねうるかについて、先行研究は以下のように論じている。大島吉郎（2005：230）は、「いずれも日常的な生活の場面を中心とする『常用語』として用いられており、高度に抽象的な意味を持つ語は含まれない。」と指摘している。刘月华（1983）は、「只有动作动词可以重叠，而且只有“持续动词”和“自主动词”才可重叠。（動作動詞のみが重ね形を取りうる。さらに、重ね可能なのは持続動詞と意志動詞に限られる。）」潘国英（2007：274）は、「表示的动作是主观上可以控制的，即自主动词，（中略）重叠后更加表现主观上可控制的动作量的变化。（主観的制御性を備えた動作を表す動詞、すなわち意志動詞である。（中略）重ねによって、主観的制御可能な動作量の変化が明確に示される。）」と指摘している。たとえば、「瞧瞧」の基式は「瞧」、「歇歇」の基式は「歇」、「听

听」の基式は「听」、「问问」の基式は「问」であり、いずれも単音節の行為動詞である。一方、「死・活・吃惊」などのような主観的制御の及ばない動詞は、原則として重ねを許さない。しかし、大島（2005：237）も例外を挙げている。たとえば、

1）**况且能多大年纪的人，略病一病儿就这么想那么想的，这不是自己倒给自己添病了么？**（第11回）

大島（2005：273）は、「陳述の対象に対する話者の感想、意見を描写的に述べるケースであり、動作主の主体性、意思が動詞に反映されてはいない。」と解釈する。

また、V一V変体（看一看）とV了V変体（看了看）は、単音節動詞の重畳形式の間に「一」または「了」を挿入したものであり、AA式の変体とみなすことができる。「一」は動作の軽微さ・短時間性を、「了」は動作の完了・実現を標示し、いずれも重畳がもつ「動作量の調整」という機能を補強するものである。

なお、「看看」「瞧瞧」のような重畳は、動詞の語彙的意味を保持したまま、その動作の量的側面のみを調整する点で、基式の意味から大きく離れることのない、典型的な重畳である。この点は、「拉拉扯扯」のAABB式や「醉醺醺」のABB式が状態性を帯びるのと対照的である。

### 3.2.2　文成分とコロケーション

#### 3.2.2.1　文成分

『紅楼夢』における形容詞重畳式は、大体すべての文成分をも担うことができるが、これと異なって、『紅楼夢』前八十回における動詞重畳式を調査した結果、すべて述語として用いられる

表4　『紅楼夢』における動詞重畳式の文成分

| 動詞重畳式 | 述語 |
|---|---|
| VV式 | 863 |
| ABAB式 | 96 |
| AABB式 | 3 |
| 総計 | 968 |

以下に『紅楼夢』前八十回における動詞重畳式の例文を挙げる。

2）刘姥姥便说：“原是特来瞧瞧嫂子你，二则也请请姑太太的安。若可以领我见一见更好，若不能，便借重嫂子转致意罢了。”（第6回）

例 2）では、「瞧瞧」は「嫂子你」を目的語、「请请」は「姑太太的安」を目的語とする述語である。「领我见一见」は「兼語文」として、「见一见」が「兼語文」の述語である。

3） 袭人便将昨日睡觉无人作伴，宝姑娘坐了一坐的话说了出来。（第 36 回）

例 3 では、「坐了一坐」は、当該連体修飾節内部の述語であり、節全体が中心語「話」に対する連体修飾語として機能する。

### 3.2.2.2 コロケーション

『紅楼夢』における動詞重畳式の使用状況を調査した結果、副詞「略」が動詞重畳式の前に共起する用例は 25 例確認された。たとえば、

4）贾蓉笑道：“我父亲打发我来求婶子，说上回老舅太太给婶子的那架玻璃炕屏，明日请一个要紧的客，借了略摆一摆就送过来。”（第 6 回）

5）薛姨妈忙道：“跟你们的妈妈都还没来呢，且略等等不迟。

例 4）例 5）では、「略」は副詞で、動詞または動詞重ね型（動詞重複式）の前に置かれ、動作の程度が「わずか、少し、ちょっとである」ことを表す。動詞重畳式（摆一摆、等等）など、自体に「短時間・軽く行う」という少量・軽微なニュアンスが備わっており、「略」と共起することで、この「わずかに行う」意味を強調し、行為が一時的で負担の少ないものであることを示し、会話の語気を和らげる。

また、「细」と共起する例が 19 例である。たとえば、

6）贾琏道：“你还不足？你细想想，昨儿谁的不是多？今儿当着人还是我跪了一跪， 又赔不是，你也争足了光了。这会子还叨叨，难道还叫我替你跪下才罢？太要足了强也不是好事。”（第 44 回）

7）凤姐上来笑道：“老祖宗倒细细的看看，好不好？（第 69 回）

副詞「細」あるいは「細細」は、動詞重ね式「想想」と共起し、動詞重ね本来の「軽微・短時間」の意味を保ちながら「慎重、詳細」という質的限定を加え、単なる「よく V する」より語気を緩和し、話し手に「慎重に確認してほしい、詳しく聞きたい」という主観的な期待と意向を滲ませ、『紅楼夢』の会話文における勧告・依頼の丁寧な表現を実現するもので、知覚・思考・発話動詞との共起性が高い。

### 3.2.3 モダリティ

『紅楼夢』における動詞重畳式を考察した結果、その多くは会話文に現れ、かつ命令文に頻出することが認められる。潘国英（2007：275）の「祈使句是动词重叠出现的典型环境。（命令文は動詞重ね形式が出現する典型的な環境である。）」と合致する。表 3 は、動詞重畳式が会話文と命令文における語数を表すものである。

**表 3　会話文と命令文における動詞重畳式**

| 重畳の形式 | 用例数 | 会話 | 地の文 | 命令文 |
|---|---|---|---|---|
| AA 式 | 867 | 612 | 255 | 221 |
| ABAB 式 | 96 | 80 | 16 | 22 |
| AABB 式 | 3 | 3 | 0 | 0 |
| **総計** | 966 | 695 | 271 | 243 |

以上のように、重畳形式別の集計結果は以下の通りである。AA 式は全 867 例、会話 612 例、地の文 255 例、祈使文 221 例。ABAB 式は全 96 例、会話 80 例、地の文 16 例、祈使文 22 例。AABB 式は全 966 例、会話 695 例、地の文 271 例、祈使文 243 例。全体の傾向として、いずれの形式も会話文脈での出現頻度が地の文を上回る。AA 式の祈使割合が最も高く、次いで ABAB 式の祈使割合は相対的に低い。AABB 式は主に動作の様態・反復を描写する機能に偏り、依頼・勧告といった交際機能の使用比率は低い。

## 4.意味分析

### 4.1　短時量

太田辰夫（2013：185、187）は、「AA 型は現代では短時態となって、動作のおこなわれる時間が短いことを表すようになった。これはおそらく動詞を重複させその間に＜一＞を用いるものから出たもので＜一＞の省略とともに、回数を表すことがなくなったものと思う。」「ABAB 型の動詞重複形式は AA 型に同じ短時態で、ただがんらい２音節のものを重複させたにとどまる。」と指摘している。王力（1954）は動詞重畳を「短時貌」と呼び、丁声樹ほか（1961）は「少し～する」の意味を表すとする。邢福義（2000）は重畳によって動作の分量が軽くなると述べ、邵敬敏（2000）は「少さ・軽量」が動詞重畳の核心的意味であると主張する。

短時量は孤立した語義ではなく、「略」「只」といった限量副詞に共起する。「略」は 25 例の例文に現れ、「略＋VV」という安定した枠組みを形成する。たとえば、「略坐坐」（第 72 回）「晚间只求求凤姐儿便完了」（第 7 回）。これらの「坐坐」「求求」は、長時間かけて座る・頼

むのではなく、一瞬、少量、軽い動作を示す。重ね形式によって動作の「量」を抑え、きつくない軽やかなニュアンスを生み出す。

李宇明（1996：11）は、「“调量”是动词重叠的最基本的语法意义。（「量の調整」が動詞重ね型の最も基本的な文法的意味である。）」と指摘している。重畳は基式の表す物量・数量・動作量・度量を、増大と減少の二方向へ変化させる。動作量の減少は「回数が少なく時間が短い」という基本義を表し、そこから「軽微」「ふと」という語用義が派生し、さらに「試行」という範疇が引申される。動作量の増大は「多量」を表し、「軽微・ふと」との結合から「習慣」という文法的意味が引申される。

8）这贾璜夫妻守着些小的产业，又时常到宁荣二府里去请请安，又会奉承凤姐儿并尤氏，所以凤姐儿尤氏也时常资助资助他，方能如此度日。（第 10 回）

例 8）の「请请安」「资助资助」は「少量」の意味ではなく、いつも、習慣的な動作を表す。

### 4.2　試行

趙元任（1968）は重畳を「動詞の嘗試態」、呂叔湘（1978）は「嘗試相」と呼び、朱徳熙（1982）は“伸伸舌头”“理理发”のような重畳式が常に試行を表すと指摘している。李宇明（1996:14）はさらに、重畳が一般に命令、請求あるいは希望する試行を表し、その後に「看、看看、试试」を付加する。試行を表す動詞重畳式は、いつも「试试」「看看」などと共起する。これに対して、李人鑒(1964)は、「試行の意味は文全体あるいは動詞重畳式と共現する「试试」「看看」を表出する。」と指摘する。たとえば、

9 ）贾瑞收了镜子，想道：“这道士倒有意思，我何不照一照试试。”（第 12 回）

例 9）では、「照一照试试」は動詞重畳が嘗試を表す代表的な例とみえるが、李人鑒の立場からは、嘗試義は重畳自体の基本的な文法意味ではなく、「何不」による自身の勧誘構文、「试试」の共起、求知性動詞「照」と文脈が相まって、短時量という基底的意味から派生した語用効果にほかならない。

したがって、動詞重畳式は試行の意味を表すのか、それとも後続の「试试」「看看」が試行の意味を担うのかについては、今後の課題にする。

### 4.3　反複態

太田辰夫（2013：187）は、AABB 式動詞重畳式は古今を通じ反複態であると指摘している。

朱德熙（1982:62）は、「动词重叠式表示动作的量。所谓动作的量可以从动作延续的时间长短来看，也可以从动作反复次数的多少来看。（動詞重畳式は動作の量を表す。いわゆる動作の量とは、動作が持続する時間の長短から見ることもできれば、動作の反復回数の多少から見ることもできる。）」と指摘する。反復量は主に二つの形式が担う。一つは AABB 式の交替反復（「谈谈讲讲」、「脱脱换换」、「走走逛逛」）で、二つの動詞それ自体が「反復・交替・持続」をコード化する。もう一つは「 V 了 V」あるいは「V 了一 V」 変体のうち反復的な試行動作を表す類で、「想了一想」、「瞧了一瞧」、「看了一看」例などである。たとえば、

10）于是园内灯笼火把， 直闹了一夜。至五更天，就传管家男女，命仔细查一查，拷问内外上夜男女等人。（第 73 回）

「查一查」では「一」が一回を表し、重畳がその「一回」を反復可能な単位とする。「仔細」との共起により、反復して遍く調べる意味が明瞭となる。

11)宝钗劝了一回，因说道：“妹妹若觉着身子不爽快，倒要自己勉强扎挣着出来走走逛逛，散散心。”（第 67 回）

「走走逛逛」は AABB 式で二つの近義動作を並置し、「少し歩き、少しぶらつく」という交替往復をコード化する。その反復量は単一動作の延長からではなく、動作の交替的な展開から生じる。

## 5. 動詞の重畳動因 ― 認知言語学と心理言語学による考察

認知言語学と心理言語学はいずれも認知的アプローチに立つ言語研究であるが、研究の焦点には明確な境界がある。認知言語学は言語形式と人間の概念化のあり方との理拠的な関連を探り、重畳形式がなぜ短時間性・少量性・婉曲性といった意味を担いうるのかを説明する。一方、心理言語学は言語産出・理解時の脳内処理メカニズムを対象とし、『紅楼夢』の交話文脈において、話し手がなぜ重畳形式を選択し、聞き手・読み手がその形式からどのような知覚効果を受け取るのかを解明する。両者は相互に補完し合い、『紅楼夢』前八十回における動詞重畳式の使用動機と意味的特徴を総合的に説明する。

### 5.1 認知言語学から見た動詞重畳式

#### 5.1.1 量の類像性

重畳類像メカニズムについて、Tai（1992）は中国語の観察のもとで、最初に明確に提唱した。辻（2013：373）は、「類像性は、類像的／アイコン的（iconic）な性質を持つことを言い、程度差が認められる。」と指摘する。ヘイマン（Haiman 1980b）は類像性を有縁性と同型性に区別し、有縁性が記号と指示対象との間に何らかの類似性を指す。张敏（1998：176）は動詞重畳式

が量の類像性を表現し、「从形式上看，动词重叠式的本质正是同质形式的复现：同样一个动词一连出现两次。很清楚，此处语言形式的结构以象似的方式对应于概念的结构（形式から見れば、動詞重畳式の本質はまさに同質的形式の反復である。即ち、同一の動詞が連続して二回現れるのだ。明らかに、ここにおける言語形式の構造は、類像性の方式で概念構造に対応している。）」と指摘している。以下に量の類像性で『紅楼夢』における動詞重畳式を解釈してみる。

また、辻（2013：373）は C.S.バース（Peirce）の観点を引用し、「バースは類像を『図像／イメージ（image）』と図表／ダイアグラム（diagram）に下位区分した。図像は記号の形や音が指示対象の形や音を直接的に反映する記号を言い、文字レベルでは象形文字や絵文字が、一般語彙としては擬音語や擬声語が図像にあたる。図表は記号の側の内部的な関係が、指示対象の内部的な関係を直接的に反映したものを言い」と指摘している。『紅楼夢』の動詞重畳式（VV 式・ABAB 式など）は、記号の形や指示対象を直接的に反映する図像ではなく、言語形式内部における反復関係が、動作事象内部の時間的・量的関係を模写し、図表に属する。VV 式と ABAB 式動詞重畳式は形式で V と AB の動詞を一回複製するため形式の増分は小さく、短時間・少量・試行的な動作を写し取る。形式の一回だけの重複は、指示対象という動作の「短時量」「短動量」「試行」などの少量を反映し、図表の類像である。即ち、ヘイマン（Haiman 1980）の「意味と形式の一対一対応をいう」である。また、AABB 式は形式で A と B の二動作を重複し、反復度合いが高く、断続的・往復的・持続的に繰り返される動作を表す。一方、重畳しない単純動詞は形式に反復がなく、動作の種類を抽象的に指すだけで、「反復・少量」という量の特徴を伴わない。たとえば、

12）宝玉道：“我怎么没见过？你带他来我瞧瞧。”（第 5 回）

重畳形の“瞧瞧”は動作の「見る」一回に重複し、短く軽く眺めるという試行的な視行為を模写する。長時間じっと見つめる意味にはならない。

13）贾珍又吩咐贾蓉道：“你跟了你叔叔去，也到那边给老太太，老爷，太太们请安，说我和你娘都请安，打听打听老太太身上可大安了？还服药呢没有？“（第 64 回）

重畳形の「打听打听」（ABAB）は、試しに浅く尋ねる程度、深入りしない小規模な情報収集をアイコニックに表す。 もし“咱们再打听”の“打听”は、「尋ねる」行為を実施するというだけで、浅い試行に限定されず、詳しく探し回る意味にもなる。

14）湘云笑道：“还是这个情性不改。如今大了，你就不愿读书去考举人进士的，也该常常的会会这些为官做宰的人们，谈谈讲讲些仕途经济的学问，也好将来应酬世务，日后也有个朋友。没见你成年家只在我们队里搅些什么！”（第 24 回）

二つの類義動詞をそれぞれ重ね、「谈谈＋讲讲」と二重の反復構造を作ることで、言語形式側の反復・往復の関係が、事象側の「何度も繰り返し、行き交うように話し合う」という動作構造を模写する。つまり言語形式の反復のあり方が、動作の反復的な様態と知覚的に類似する関係にある。この意味は恣意的な文法規則から生まれるのではなく、言語形式の反復構造と、動作の反復性との図表的な象似関係に支えられている。

### 5.1.2 主観性

Traugott(1995:31)は、「主観化」とは「意味が命題に対する話し手の主観的信念/態度に根ざすようになるプロセス」であると定義する。沈家煊（2001:268）は、Lyons（1977:739）の観点を参照し、「“主观性”(subjectivity)是指语言的这样一种特性，即在话语中多多少少总是含有说话人“自我”的表现成分。也就是说，说话人在说出一段话的同时表明自己对这段话的立场、态度和感情，从而在话语中留下自我的印记。（「主観化」とは、言語の次のような特性を指す。すなわち、言葉に多かれ少なかれ話者の「自我」の表現成分を含む。つまり、話し手はあるまとまりのある一区切りを話す時、同時に自己のその話に対する立場、態度、感情を表明し、それによってその言葉に自我の印を残すのである。）」と定義する。言語表現の「主観性」のプロセスをまとめれば、それは、観察者（話者）の体験から認識し、自身の立場による参与度を決めて、把握するプロセスである。認知する過程に観察者の自身の態度、感情を引き込んで、評価を表す。動詞重畳式が持つ「少量・婉曲·試行」の意味は、動作自体が客観的に短いからというより、話し手自身の態度・評価をこの形態に封じ込める現象である。

潘国英（2007）は、動詞重畳式の主観的な色彩が①動詞の意味、②文の種類、③人称代名詞、④付加成分四つの言語手段を通して表現されると指摘した。以下、「話者の視点」「話者の感情」「話者の認識」の三方面から、潘国英（2007）の言語手段を基づいて、『紅楼夢』の使用実例を分析する。

#### 5.1.2.1　話者の視点

話者の視点について、辻（2013：150）とは、「主体である話し手が事態の解釈において選び取った見方の意である。」と指摘する。即ち、話しては事象を観察する立場のことである。動詞重畳式が表す「少量・短時・試行」あるいは「断続的反復」は、動作そのものの客観物理量ではなく、話し者が事象に対して主観的なことを表す。話者が観察の視点を調整し、動作を「軽微」あるいは「往復反復」と捉えたいとき、重畳形式が選択される。

15）此刻忽见宝玉笑问道：“宝姐姐，我瞧瞧你的红麝串子？”（第 28 回）

「瞧瞧」は、客観的に見る時間の長さを規定するのではない。話者である宝玉は、表兄妹という身分の制約から、要求の強制力を弱め、礼儀正しい婉曲な態度を表し、「飾りを見る」という

行為が軽い要求であるため、話者の暗黙の判断が埋め込まれている。「見る」行為を軽微で試行的な小さな事象と主観的に見積もる。

#### 5.1.2.2　話者の感情

潘（2007：268）は、「我们能够感受到语言使用者在使用动词重叠时所表现出来的受社会心理影响的主观性情感来。（言語使用者が動詞重畳式を用いる際に、社会心理に影響された主観的な感情を我々は捉えることができる。）」と指摘する。大島（2005：230）は「対話する相手への配慮（気遣い）を表現するのが動詞重畳式の主要なはたらきであるとすれば、当然のことと考えられよう。」と指摘している。特に命令文の祈使・勧告・依頼の文脈において、動詞重畳は強い命令を緩和し、相手への思いやり、礼儀、配慮といった話者の感情を表出する手段として機能する。

VV 式、ABAB 式の祈使文における高い出現率は、これらの重畳が話者の命令の強さを緩和し、婉曲な依頼・勧告を表現する主観的手段として選択されやすいことを示す。特に VV 式は形式が簡潔で、日常的な交渉、頼むことに適している。たとえば、

16）王夫人因回贾母说：“这里风大，才又吃了螃蟹，老太太还是回房去歇歇罢了。若高兴，明日再来逛逛。”（第 38 回）

例 16）では、王夫人が賈母に対して「歇歇」「逛逛」と語った用例をみると話者である王夫人の憂慮と労わりという主観的な感情が含んでいる。勧告の文脈において動詞重畳式は、強い命令のニュアンスを和らげることで、相手の身体を案じる思いやり、身分関係にふさわしい礼儀、相手の気持ちを尊重する配慮といった話者の感情を自然に表出する手段として働く。王夫人は硬い命令ではなく穏やかな勧告を通じ、賈母の体調を気遣う感情を伝えようとしており、重畳形式はこのような主観的な感情を言語に埋め込む認知的な標識となっている。

#### 5.1.2.3　話者の認識

話者の認識とは、話者が当該行為について「実行することが妥当・筋の通っている」という暗黙の判断である。動詞重畳式には「この行為は試しに行ってよい、完璧を求めなくてよい」という話者の認識が埋め込まれる。逆に「行うべきではない」と話者が判断する行為には重畳が現れにくい。

17）王夫人道：“你哥哥既这么说，你就照看照看罢了。只是别自作主意，有了事，打发人问你哥哥，嫂子要紧。”（第 13 回）

例 17）の「照看照看」は話者の認識を鮮明に反映している。王夫人は、この看管・対応する行為自体を実行することは妥当であると判断しているため、動詞重畳を使用する。重畳によって「試しに対応してよく、完璧にすべてを引き受ける必要はない」という認識が埋め込まれ、全面

的な責任を相手に課すのではなく、限定的な範囲で行うことを許可している。同時に「勝手に判断しないで、問題があれば兄夫婦に問い合わせる」という補足の言葉も、この認識と呼応している。つまり王夫人は、行為の実施を是認する一方、過度な負担や独断を好ましくないと判断しており、動詞重畳はこのような話者の認識を表出する手段として機能している。

以上、話者の視点、話者の感情、話者の認識の三方面から検討した。話者の視点とは、動作に対する主観的な量の評価、すなわち主観量を表すものである。話者の感情は、祈使・勧告・依頼の文脈において、相手への配慮や礼儀といった情緒を言語に表出する。話者の認識は、当該行為を実行することの妥当性、試行的な性質に関する話者の暗黙の事理判断を反映している。この三つの側面を通じ、動詞重畳式は話者の自我、態度、評価を言語に刻印する主観化の手段として機能する。

以上より、認知言語学の視点から見れば、『紅楼夢』動詞重畳式の認知的動機は人間が世界を概念化する仕方に根ざす。量のアイコニシティは形式と動作特徴の模写的連関を作り、量範疇理論は重畳が話し手の主観的な動作量を調整する文法手段であることを説明し、主観化理論は婉曲・配慮といった態度意味の由来を解明する。重畳形と非重畳形の核心的な意味差は、動作の客観的長短そのものではなく、**重畳形に話し手の量評価と主観的態度が埋め込まれ、単純動詞は動作類型を指すだけでこの標識を持たない点**にある。賈府の厳格な身分秩序のもと、婉曲で柔らかい表現への需要が高いことが、人物の会話に動詞重畳が頻出する認知的土台となっている。

### 5.2 心理言語学から見た動詞重畳式

認知言語学は形式が意味を生む概念的動機づけと理拠を対象とし、主観化、象似性といった理論をもとに、『紅楼夢』において話者が自身の視点・感情・認識を重畳形式に埋め込む様子を分析する。一方、心理言語学は言語の産出と理解における脳内処理に焦点を当て、「なぜ人々は会話の場で重畳を選び、重畳形式を受け取った際にどのような心理的知覚が生まれるか」を問う。心理言語学は言語使用者のリアルタイムな心的処理メカニズムを検討する、本節は作業記憶モデル、心の理論に基づいて分析する。（Baddeley & Hitch,1974：47–89；Premack & Woodruff,1978：515–526；Barsalou,1999：577–660；桂詩春 1985：94、139–140）

#### 5.2.1 作業記憶理論

Baddeley と Hitch（1974）が提唱した作動記憶モデルは、限られた注意資源のもとで情報の保持と加工を同時に行う心的システムを記述しており、中央執行系、音声ループ、視空間スケッチパッド、後に追加されたエピソーディックバッファー（Baddeley，2000）から構成される。リアルタイムの言語理解には作動記憶の容量制約が存在する。規則的で予測しやすい言語形式は情報保持・統合にかかる認知負荷を抑え、エピソーディックバッファーは韻律、統語、話者態度など複数のモダリティ情報を低コストで結びつけ、口頭会話の即時処理に適している。

Baddeley らの作動記憶モデルから見ると、漢語の動詞重畳式は「加工の経済性」を実現する形態テンプレートとして理解できる。AA 式重畳は基底動詞の反復という規則性の高い構造であり、聞き手は音声情報から後続の成分を予測しやすく、統語解析における情報保持・統合のコストを抑えることができる。作動記憶のエピソーディックバッファーは韻律、イントネーション、統語情報といった複数のモダリティ情報を結びつける役割を担うが、規則的な重畳形式は少ない認知負荷で、動作の体貌的意味や婉曲な話者態度を一括してコード化する。このような反復構造は言語獲得の初期段階から認知的に受け入れやすく、9 か月の乳幼児は重畳音節に対して高い感受性を示すことが先行研究により確認されている。（Ota & Skarabela, 2018）

『紅楼夢』前八十回の語料において VV 式が 89.2%を占め、会話文に集中する分布特徴は、作動記憶の制約を考慮した即時的な口頭交際に適した形式であるという予測と整合する。VV 式・ABAB 式の動詞重畳は安定した「重 - 軽」リズムを持ち、後続音節は軽声となり、脳にとって既知のプレハブチャンクとして扱われる。一方、重畳しない単純動詞には固定した軽声リズムがなく、開放的な構文単位となり、聞き手は文脈から動作情報を推測する必要があり、処理負荷が高いと考える。

同 15）例：此刻忽见宝玉笑问道：“宝姐姐，我瞧瞧你的红麝串子？”（第 28 回）

「瞧瞧」は VV 式動詞重畳の用例である。もし単独の「瞧」を用いた場合、聞き手の薛宝釵は、宝玉が単なる好奇心で見たいだけで、強引に奪ったり長時間見続けたりするわけではない、文脈から別途推測しなければならず、作動記憶に推論の負荷がかかる。重畳形式自体に軽微・試行的な意味傾向が備わっているため、薛宝釵は「瞧瞧」を聞いた瞬間に、それが強い要求ではなく穏やかな伺いであると速やかに把握できる。エピソーディックバッファーは重畳構造、疑問文の形式、宝玉の笑顔といった情報を統合し、低い認知コストで話者の意図を理解する。「瞧瞧」の固定的な重 - 軽リズムにより、読み手が黙読し、あるいは聞き手が聴取する際、重畳パターンが速やかに認識され、音声ループの負担が小さい。軽快なリズムから「軽く一瞬眺める」という知覚が生まれる。「我瞧」にはプレハブ韻律テンプレートが存在せず、語気は中立的で、動作の軽重は文脈に依存して判断される。

18）大清早起，在这个潮地方站了半日，也该回去歇息歇息了。（第 35 回）

重畳の滑らかで軽快な韻律は対面会話での受け取り負担を抑え、柔らかい勧告に適する。「你歇息」はリズムが平坦で、プレハブチャンクによる省力効果がなく、厳かに聞こえる。

### 5.2.2 心の理論

心的理論（Theory of Mind）とは、人が信念、意志、意図、知識など直接観察できない心的状態を自分自身と他者に帰属させ、それにもとづいて他者の行動を予測する推論能力のことである（Premack & Woodruff,1978:515）。語用的交際の枠組みにおいて、言語によって符号化された意味は話者の交際意図そのものではない。関連性理論によれば、符号化された意味は意図の手がかりに過ぎず、聞き手は文脈仮説を調整し、関連性の期待を満たす解釈に至る（Wilson & Sperber, 2006）。また、指示、会話の含意、共通背景の管理といった語用現象の理解は、交際者同士の心的状態に関する推論に依存する（Papafragou & Grigoroglou, 2025）。依頼や勧告は典型的な面子脅かし行為であり、聞き手の消極的な面子の欲求に反し、聞き手に行動上の圧力を与える。理性的な話者は面子脅威の重さを評価し、補償的策略を選択して押し付けの度合いを緩和する（Brown & Levinson, 1987:65）。

心的理論の視点から見れば、『紅楼夢』における動詞重畳式は、話者が心的推論を経て選択する消極的礼儀の補償策略である。話者は、基底動詞をそのまま用いて依頼や勧告を行うと、発言行為の押し付けの度合いが高まり、聞き手の消極的な面子を脅かすことを予測する。動詞重畳には「動作の量が少ない、時間が短い、負担が限られ、協議可能である」という慣習的な意味が備わっている。この符号化された意味は交際意図を読み取るための手がかりにすぎず、聞き手は二者の身分、上下関係、場面の文脈をもとに文脈仮説を調整し、婉曲な協議という会話の含意を導き出し、関連性の期待を満たす。話者は聞き手の立場に立ち、相手の意向と心理的負担を推し量り、重畳式によって命令の強制性を弱め、面子への脅威を軽減し、聞き手が受け入れ、あるいは婉曲に断りやすいように調整する。『紅楼夢』の会話は長幼、主従、親戚といった上下関係を伴う場面が多く、交際者同士が相互に心的状態を推測し、交際の共通背景を管理し続けるため、動詞重畳の婉曲・協議機能が頻繁に現れる。たとえば、

19）鸳鸯刚至堂屋中， 只见平儿从里间出来，见了他来，忙上来悄声笑道：“才吃了一口饭歇了午睡， 你且这屋里略坐坐。”（第 72 回）

「坐坐」は VV 式動詞重畳の用例である。もし「座りなさい」と直接言った場合、硬性の指示となり、聞き手の鴛鴦に長く留まる義務的な圧力を与え、消極的な面子を脅かす。平児は発話の前に心的推論を行い、鴛鴦は用事で来ており、長居するつもりはない可能性があることを予測した。そのため重畳形式「坐坐」を選び、微量性の意味を意図の手がかりとして提示する。鴛鴦はこの手がかりをもとに、二人がともに侍女で仲が良いという文脈から文脈仮説を調整し、長く拘束する招待ではなく、一時的な穏やかな勧誘であると読み取り、関連性の期待に適う解釈に至る。

話者は相手の事情を推測して拘束感を与えないよう配慮し、聞き手もその優しい意図を理解し、双方の面子を守りながら交際が成立する。

20）所以我来和你老人家商议商议，这个情分，求那一个可了事呢？（第 7 回）

「商议商议」は ABAB 式動詞重畳の用例である。もし「我来和你老人家商议」と述べると、相手に判断の責任を負わせ、心的な負担を強いるニュアンスが強くなる。話者は事前に心的推論を行い、相手が長老であるため、重大な問題を直接持ちかけると、負担を強いて消極的な面子を脅かすと予測した。重畳形式「商议商议」を用いることで、「結論を急がず、軽く意見を交わすだけでよい」というニュアンスを手がかりとして伝える。長老は自身の身分と事件の背景をもとに文脈仮説を調整し、話者が一方的に判断を求めているのではなく、意見を伺い、一緒に検討したいだけだと推知し、関連性の期待に適う解釈に至る。重畳により事柄の重圧を緩和し、長老を尊重し、断る余地を残している。

心理言語学の視点から総括すると、『紅楼夢』において話し手が動詞重畳を選択する動機は、言語処理、対人心知の脳内メカニズムに支えられている。重畳は韻律的プレハブチャンクとして即時会話の処理負荷を下げ、心の理論に基づいて身分差のある交話場面のフェイスを守り、知覚シンボルシミュレーションを通じて物語の臨場感を生み出す。重畳形と非重畳形の心理的な差異は動作そのものにあるのではなく、受け手の解析難易度、聞き手が知覚する強制度、読者が自動的に喚起する動作イメージの違いにある。

認知言語学と心理言語学を統合的に考察すると、『紅楼夢』動詞重畳式の使用動機は概念的理拠と心理的処理メカニズムが一体となったものである。認知レベルでは、量の類像性、主観化が重畳に短時間性・少量性・婉曲性という意味的素質を与え、重畳形式がなぜこうした意味を担いうるのかを説明する。心理レベルでは、作業記憶による処理の省力化、心の理論にもとづくフェイス方が、具体的な交話文脈において話し手が重畳を選び、読み手・聞き手が特定の語感やイメージを受け取る仕組みを解明する。

## 6. 結び

本稿は『紅楼夢』前八十回を資料とし、AA 式・V 一 V・V 了 V・ABAB 式・AABB 式などの動詞重畳式を対象に、統計的調査、語構成・文成分の考察、認知言語学・心理言語学の二つの視点から動詞重畳式の意味特徴と使用動因を検討した。主な結論は以下の四点にまとめられる。

一、統計の結果から、『紅楼夢』前八十回の動詞重畳式は AA 式を中心としており、知覚動詞・行為動詞が高頻度で重畳され、会話文に集中的に出現する。動詞重畳式は基本的に述語として機能し、「略」「細」などの限量副詞と共起しやすい。祈使・勧告・依頼といった交際場面で

多用され、身分秩序に基づく婉曲表現の手段として活用されていることが確認できた。また、自主动詞を重畳の基式とするのが原則であり、制御不能な非自主动詞の重畳は例外的なものに限られる。

二、意味分析の検討によって、動詞重畳式の基底的な意味は李宇明の言う「量の調整」であり、短時量・少量性を核心とする。短時量を基礎として、反復態、試行義などの意味が派生する。試行義は重畳形式自体に内在する基本意味ではなく、「何不」という勧誘構文、「试试」などの共起成分、動詞の語義と文脈が相互に作用して生まれる語用的効果である。AABB 式は主に交替的・持続的な反復動作を表し、状態描写に傾くものは形容詞重畳式に分類すべきである。

三、認知言語学の視点から見ると、動詞重畳式の認知的動因は量の類像性と主観化にある。量の類像性により、言語形式の反復構造が動作事象の量的関係を模写する。主観化の面では、話者の視点、話者の感情、話者の認識の三つの側面から主観的意味がコード化される。すなわち、話者が動作を主観的に少量・軽微なものと評価し、相手への配慮や礼儀といった感情を伝え、動作実行の妥当性に関する自身の判断を埋め込む手段として重畳が機能する。

四、心理言語学の視点からは、作業記憶理論と心の理論によって、重畳の選択と理解のメカニズムが説明できる。重畳は定型的な韻律チャンクとして、リアルタイムの会話処理における認知負荷を低減する。また心の理論の観点から、話者は相手の心理状態を推測し、面子を脅かす度合いを抑えるために重畳式を選択する。これにより、上下関係の厳しい賈府の交話場面で、依頼や勧告が柔らかく伝わる。

最後に、本稿の限界と今後の課題を述べる。本稿は『紅楼夢』前八十回の語料に限って分析しており、後四十回や同時代の白話文資料との比較は行っていない。また試行義が重畳に内在するか、文脈から派生するかについて、さらなる検討が必要である。今後は同時代の文献を加え、近代中国語における動詞重畳式の変遷を追跡し、形容詞重畳式との対比を一層深めていきたい。

## 参考文献

## 略